

第1回～第26回

☆放送時間☆

期間	曜日	時間帯
昭和49年4月4日～ 昭和49年9月26日	木	22時30分～ 22時55分

司会：平尾昌晃

レギュラー：けい子とエンディ・ルイス

☆凡例☆

- | | |
|-----------------------------|-------|
| ①サブタイトル・放送回 | ②出演者 |
| ③曲目(歌唱者) <small>(※)</small> | ④放送概要 |

※出演順が判明している回は、冒頭に太字で(出演順)と記入)

番組冒頭の「愛ある人生」(平尾)、「今月の歌」(けい子)、番組ラストの「恋人の子守唄」(平尾)は、毎回歌われていたため記載から省略した。

昭和49年4月4日

①「平尾昌晃ヒット曲集」 # 1

②五木ひろし

③「ミヨちゃん」(五木)、「星はなんでも知っている」(五木)、「霧の摩周湖」(五木)、「夜空」(五木)

④ 歌の内容を中心にテーマを決め全体の流れにストーリーを持たせて構成、流行歌から民謡まで日本人の胸をうつ幅広い歌をゲスト歌手が披露する歌謡番組。ホストは平尾昌晃。蒲田電子工学院ホールより。

第一回はホストの紹介を兼ねて平尾にスポットを当て、作曲家として一本立ちするまでの平尾の歌の歴史をヒット曲を通じて紹介する。ゲストは五木ひろし。

平尾はヒット曲を通じて、布施明、五木ひろし、小柳ルミ子、じゅんとネネなどのスターを生み出し、作詞家の山口洋子とコンビを組んだ「夜空」は昨年度レコード大賞受賞曲となった。

番組ではゲストの五木ひろしが、平尾のヒット曲をメドレーで歌う。

昭和49年4月11日

①「魅惑の演歌」 # 2

②森進一

③「襟裳岬」(森)、「小鳥と少年」(森)

④ よしだたくろう作曲の「襟裳岬」の大ヒットで新境地を開いた森進一がゲスト。森は「この曲のヒットで、これまでのボクの味を捨てるのではないかというファンからの手紙が殺到しました」と語っている。

ほかに「小鳥と少年」など8曲。

蒲田電子工学院ホールより。

昭和49年4月18日

①「女心ひとすじに……」 # 3

②八代亜紀、中条きよし

③なみだ恋(八代・平尾)、霧の摩周湖(八代)

④ ゲストの八代亜紀が司会の平尾と「なみだ恋」をデュエットしたり「霧の摩周湖」を歌ったりで、新しいタイプの演歌をじっくり聞かせる。

昭和49年4月25日

①「愛の歓び」 # 4

②佐良直美

③「恋」(佐良)、「世界は二人のために」(佐良・平尾)

④ 愛のかなしさ、失恋の歌を歌える歌手はたくさんいるが、「愛のすばらしさ」を歌える歌手は少ないという。今夜のゲストは、その数少ない歌手のひとり、佐良直美を迎える。

生活のにおいの希薄な佐良直美の歌は、その家庭環境からくるのだろうか——。彼女自身は、ホス

トの平尾昌晃との対談で「失恋してウジウジ泣くななんてシヤクじゃないですか、それより、車でもブッ飛ばしたほうが、スツとするわ」と語っている。

平尾の作曲で布施明が歌ってヒットした「恋」を歌うほか、平尾と「世界は二人のために」をデュエットしたり、楽しく過ごす。

昭和49年5月2日

- ①「限りなき熱唱」 # 5
- ②尾崎紀世彦
- ③「思い出のグリーングラス」(尾崎・平尾)
- ④ 今夜のゲストは尾崎紀世彦。自分の好きな歌を好きなように歌ってきたという尾崎だが、“プロ歌手”としての自覚について、最近、真剣に考えているという。番組の中でも、ホストの平尾昌晃と、そのことについて話しあう。
また、ポップス歌手、尾崎の“演歌観”を述べる。
平尾も尾崎も、ウエスタン歌手出身。「思い出のグリーングラス」をデュエットで歌う。

昭和49年5月9日

- ①「ふるさと恋歌」 # 6
- ②小柳ルミ子
- ③「博多子守唄」(小柳)
- ④ この番組のホスト役である平尾昌晃の門下生、小柳ルミ子をゲストに迎える。
作曲家平尾昌晃が、「日本の美しさ、素朴さを歌にしたい」と思っていた時に紹介されたのが、小柳ルミ子。当時、小柳はNHKのテレビ小説「虹」に出演中だった。
「まだ、小柳の歌も聞かないうちに、自分たちが描いている“ふるさと”を歌える歌手ということで、強引に彼女とプロダクションを説得し、城下町をテーマにした曲を作った」と、平尾は当時の思い出を熱っぽく語る。
今夜は、平尾のギター伴奏で、小柳のふるさと「博多子守唄」を歌ったり、ラスト・テーマ「恋人の子守唄」のピアノ伴奏をしたりして楽しませてくれる。

昭和49年5月16日

- ①「ひとりぼっちの愛」 # 7
- ②布施明
- ③「積木の部屋」(布施)
- ④若手の中でもじっくり歌を聞かせることで定評のある布施明の歌を、ホスト・平尾昌晃との話をまじえながら聴く。
曲は「積木の部屋」ほか。

昭和49年5月23日

- ①「恋・夢・おんな」 # 8
- ②いしだあゆみ
- ③ **(出演順)**「ブルーライトヨコハマ」(いしだ)、「あなたならどうする」(いしだ)、「愛愁」(いしだ)、「砂漠のような東京で」(いしだ)、「渚にて」(いしだ)、「恋は初恋」(いしだ)
- ④ 庶民派タレントが大もての中で、夢とロマンを与えるスターの代表いしだあゆみ、平尾昌晃のギター伴奏などで「渚にて」などを歌う。

昭和49年5月30日

- ①「私の出発」 # 9
- ②梓みちよ
- ③「赤いつるバラ」(梓)、「渚のセニョリーナ」(梓)、「二人でお酒を」(梓)、「京のにわか雨」(梓)
- ④ ゲストに梓みちよを迎える。ホストの平尾昌晃と顔を合わせたたん、「平尾さんは私には作曲したださらないわね」
梓は平尾の作品を三曲しか歌っていない。その第一作は「赤いつるバラ」、そのあとが「渚のセニョリーナ」、そして、最新作の「二人でお酒を」を歌う。
番組では、小柳ルミ子のヒット曲「京のにわか雨」を、宮川泰のカンツォーネ風のアレンジで歌う。

昭和49年6月6日

- ①「魅惑のコーラス」 # 10
- ②内山田洋とクール・ファイブ
- ③「ダイアナ」(クール)
- ④ ムード・コーラスの”内山田洋とクール・ファイブ”を迎える。
長崎のクラブでポップスを中心に歌っていたが、ムード・コーラスの流行で上京。今もトップの地位を保つクール・ファイブ。珍しくポール・アンカのヒット曲「ダイアナ」を歌う。
リード・ボーカルの前川清は、リズムカルな曲にもかかわらず、例のごとく直立不動。横で踊るように歌っていたホストの平尾昌晃が「こんな人も珍しい」と言えば、前川はすまして「リズムは心の中でとればいいんですよ」。スタジオも笑いにつつまれた。

昭和49年6月13日

- ①「二人で歌えば」 # 11
- ②佐川満男、伊東ゆかり
- ③不明
- ④不明

昭和49年6月20日

①「夜とブルース」 # 1 2

②青江三奈

③不明

④ ナイトクラブ出身で、夜のムードにぴったりの青江三奈がゲスト。いつもと趣向をかえ、平尾昌晃がクラブの客席に座り、フロア・シンガー青江三奈の魅力を満喫しようという構成。

青江は、高校時代「星はなんでも知っている」が大好きだった。ぜひ、平尾さんとデュエットしたいと語り、ハスキーな声を聞かせる。

昭和49年6月27日

①「歌こそわが道」 # 1 3

②菅原洋一

③不明

④ 菅原洋一が巡業先から明美夫人に出した恋文を公開。司会の平尾昌晃に「こんなやさしい手紙書く人に、女性はだませない」とほめられ大テレ。

昭和49年7月4日

①「栄光への熱唱」 # 1 4

②ちあきなおみ

③不明

④ “根性の歌手”ちあきなおみをゲストに迎える。

四歳のころからキャンプめぐりをし、十三歳でこまどり姉妹の前座歌手になった。その後、「雨に濡れた慕情」でやっと脚光をあびるようになった。

ホスト役の平尾昌晃が「ボクも少なからず、ちあきさんの根性には敬服しています」というと、ちあきは「ただ歌いたいという気持ちが強いです」。

昭和49年7月11日

①「華麗なハーモニー」 # 1 5

②ザ・ピーナッツ

③不明

④不明

昭和49年7月18日

①「演歌に生きる」 # 1 6

②藤圭子

③「夢は夜ひらく」(藤)、「霧の出船」(藤)、「命預けます」(藤)

- ④ 今夜はゲストにのどを手術した藤圭子を迎え、ホストの平尾昌晃がいろいろと聞く。
藤はかつて「演歌を背負った宿命の少女」といわれたが、やがて「演歌の星」とされ、現在は「演歌はやっぱり藤圭子」と評価されている。
平尾作曲の「霧の出船」を元気に歌った藤が「これまで暗いムードの曲ばかり歌ってきたから、こんなアップ・テンポのものは楽しい」と話す。
と、平尾は「あなたはもっといろいろな傾向の歌を歌えるはず」。息の合った二人は新曲づくりの話を進めた。
藤は「夢は夜ひらく」「霧の出船」「命預けます」などを歌う。

昭和49年7月25日

- ①「別れのサウンド」 #17
②ペドロ&カプリシャス
③「別れの朝」(ペドロ)、「五番街のマリーへ」(ペドロ)、「わたしは旅人」(ペドロ)
④ 歌謡曲に新しいサウンドを持ち込んだグループ、ペドロ&カプリシャス。デビュー曲「別れの朝」に始まり、「五番街のマリーへ」から最新作「わたしは旅人」まで、その歌を紹介。

昭和49年8月1日

- ①「スターへの道」 #18
②淡谷のり子、中条きよし
③不明
④不明

昭和49年8月8日

- ①「歌は愛のきずな」 #19
②森山良子
③不明
④ フォークの森山良子がゲスト。ジャズ・シンガーを夢みていたというだけに月末には念願のジャズだけを歌うコンサートが開けると大喜び。

昭和49年8月15日

- ①「夜のためいき」 #20
②松尾和子
③「東京ナイトクラブ」(松尾・平尾)、「再会」(松尾)、「誰よりも君を愛す」(松尾)、「煙草のくせ」(松尾)
④ ムード歌謡のベテラン、松尾和子がゲスト。最近では若い男性にも人気の高い松尾、「彼らが私に求めているのは、都会的センスの“おふくろ”なんですって。私もトシね」という。

「松尾さんのお色気で、スタジオがパッと明るくなりました」と大喜びする番組のホスト平尾昌晃が、フランク永井に代わりヒット曲「東京ナイトクラブ」を松尾とデュエット。そのあと、松尾が「再会」「誰よりも君を愛す」などを披露。

最後は山口洋子・平尾昌晃コンビが作った松尾の新曲「煙草のくせ」でしめくくる。

昭和49年8月22日

- ①「女ごろの詩」 # 2 1
- ②由紀さおり
- ③不明
- ④不明

昭和49年8月29日

- ①「夜と女と涙」 # 2 2
- ②美川憲一
- ③「柳ヶ瀬ブルース」(美川)
- ④ 美川憲一が「柳ヶ瀬ブルース」以来の女心の7曲。パチンコが唯一の趣味という彼だが「店で流しているレコードに気をとられていつも損」。

昭和49年9月5日

- ①「ポップスへの誘い」 # 2 3
- ②朱里エイコ、伊勢功一
- ③不明
- ④ 本格派歌手をめざす朱里エイコと、クラブ・シンガーで歌唱力のある伊勢功一がゲスト。二人はともにレコード歌手として、いわゆる”歌謡曲”も歌っているが、ステージで歌うことが無上の喜び。
今夜は、二人にトム・ジョーンズ、P・サイモンなどの曲を中心に歌ってもらう。

昭和49年9月12日

- ①「明日への挑戦」 # 2 4
- ②野口五郎
- ③「おとなの愛」(野口)、「告白」(野口)
- ④ この番組出演歌手の中で最年少の野口五郎をゲストに迎える。おとなの歌手の仲間入りをする野口の「おとなの愛」「告白」などが聞きもの。
「ワーワー、キャーキャーさわがれるのはうれしいけど、もっと静かにボクの歌を聞いてほしいとも思います」と、おとなの歌手への仲間入りを目ざす。全国縦断リサイタルでも、平尾昌晃作曲の「結婚申し込み」などを歌って、おとなの歌手への出発をはかった。

「ボクはあまり器用ではありませんので、ドラマなどに色気を出さず、歌一筋でいきたいと思いません。スケールの大きいバラードを歌いたいですね」と話す。

昭和49年9月19日

①「大賞への道」 #25

②五木ひろし、山口洋子

③「よこはまたそがれ」(五木)、「夜空」(五木)

④ 五木ひろしは、昭和40年、松山まさるの芸名でデビュー以来、苦節六年、一条英一、三谷謙と名を変え、昭和46年「全日本歌謡選手権」で十週勝ち抜き。それをきっかけに、平尾昌晃・山口洋子のコンビによる「よこはまたそがれ」で、五木ひろしとして再デビュー。スターの座についた。

今夜は、ホストの平尾昌晃、作詩の山口洋子を織りませ「よこはまたそがれ」から昭和48年度レコード大賞の「夜空」まで、五木ひろしが歌いまくる。

昭和49年9月26日

①「我が道は限りなく」 #26

②五木ひろし、山口洋子

③「別れの鐘の音」(五木)、「心もよう」(五木)、「ニューオリンズの魔女」(五木)

④ 先週に続いて五木ひろしと、彼の歌の作詞のほとんどを手がけている山口洋子を迎える。

五木は再デビューして三年。「ボクはデビュー当時から三年区切りの計画をねっていた」という。

「これからは、オールラウンドな歌手になるよう、リサイタルではフォークやポピュラー、カントリーソングなども手がけたい」と語る。

番組では、レコード大賞受賞後第一作の「別れの鐘の音」、井上陽水の「心もよう」「ニューオリンズの魔女」など、さまざまな“五木ひろし”をきかせる。